

事業名: 中国の医療機関との海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会確立事業

実施主体: 国立国際医療研究センター病院 国際診療部

対象国: 中国

対象医療技術等: 以下の①から⑤にあてはまるものを具体的に記載して下さい(複数可) ①医療技術、医療機器・医薬品 ②医療施設におけるマネジメント・人材開発 ③医療制度 ④注目を集めつつある国際課題

① 中国人患者のセカンドオピニオン、症例検討会を通して日本の医療技術を紹介する。

事業の背景

- ・日本の多くの医療機関で、セカンドオピニオンや症例検討会は行われている。中国でも同様に行われているが、両国間での遠隔セカンドオピニオンや遠隔症例検討会は頻繁には行われていない。
- ・これまで、NCGMは、MOUを結んでいる清華大学、北京大学とは、症例カンファレンスをこれまでに実施しているが、セカンドオピニオンはまだ実施していない。
- ・当院では、中国から日本の医療を受けるための患者が多かったが、現在のコロナ禍で、患者が来日することは困難な状況である。そのような中、中国の患者や仲介者、医療機関より、日本での医療の相談や、治療薬の問い合わせなどがあり、遠隔でセカンドオピニオンや症例検討会を実施する必要性が増してきた。
- ・がん治療に関して25の研究のシステマティックレビューでは、セカンドオピニオンによって異なる診断、治療の割合は2%から51%の範囲であったことから、セカンドオピニオンを行うことの重要性が示されている(Patient-Driven Second Opinions in Oncology: A Systematic Review. Hillen MA, et al. Oncologist. 2017 Oct;22(10):1197-1211)。

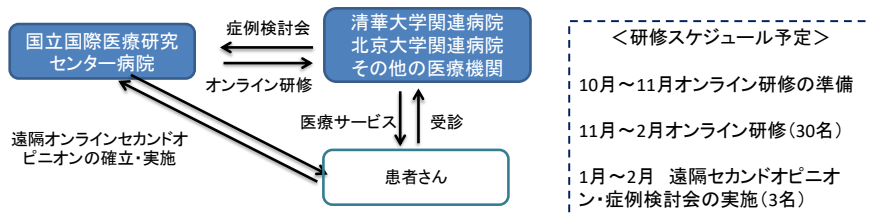
事業の目的

NCGMがMOUを結んでいる清華大学や北京大学の大学病院、及び、中国全土の医療機関を対象に、日本と中国間のセカンドオピニオン・症例検討会を確立するための研修を実施する。その結果、NCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会を実施する。セカンドオピニオン・症例検討会を実施することで、短期的には両医療機関の医療レベルの向上、中期的には日本へのインバウンド増加、長期的には中国の医療サービスにおける診断、治療の改善、医療費削減に貢献する。

「中国の医療機関との海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会確立事業」は、2020年10月～2021年2月まで、NCGM国際診療部が実施主体として行われた。セカンドオピニオンは通常、患者が病院に来て直接医師と相談をする形式が主であり、オンラインを用いて行うことはあまり想定されていなかった。しかしながら、2020年のコロナ禍において、国内の患者が病院に来ること自体に制限も出始め、外国人患者は来日することは困難となり、新たに海外遠隔セカンドオピニオンを行うことは必要であった。症例検討会は、通常、病院内で行われることはあっても、病院を超えて、また、国を超えて行われることは、技術的には可能でも、頻繁に行われるものではない。日本の医療技術を広げると共に、日中の医療技術を向上するためにも症例検討会は必要である。

中国の医療機関との海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会確立事業

- 日本の多くの医療機関で、セカンドオピニオンや症例検討会は行われている。中国でも同様に行われているが、両国間での遠隔セカンドオピニオンや遠隔症例検討会は頻繁には行われていない。
- セカンドオピニオンは、本来、対面で行うものであるが、現在、コロナ禍においては、中国から日本に来日することは困難な状況であり、遠隔でセカンドオピニオンを実施することの必要性が増してきた。
- 現在、NCGMセンター病院は、外国人患者に対する遠隔セカンドオピニオンの準備を行っている。
- 本研修では、NCGMがMOUを結ぶ清華大学、北京大学やその他の医療機関を対象として、海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会を確立するためマニュアル・手順を作成する。
- 中国におけるセカンドオピニオン・症例検討会を確立する研修を通じて、中国と日本の医療機関が、患者に対する医療の連携を行うことを可能にする。



研修目標

- (1) オンライン研修参加者 (アウトプット)
 - ・研修終了時の受講者数: 30名
 - ・NCGMとセカンドオピニオン・症例検討会に関して協力機関となる数: 3機関
- (2) 遠隔セカンドオピニオン・症例検討会の実践 (アウトカム)
 - ・実際にNCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会が行われた回数: 3回

1年間の事業内容

2020年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容 遠隔システムを用いた セミナー						10/11 参加者 3200人 10/20 参加者 260人	11/8 参加者 800人	12/12 参加者 1260人		
海外遠隔セ カンドオピ ニオン							1回目		2回目 3回目	

中国医療機関とのセミナー



中国医療機関とのセミナーでは、話題は消化器癌で特に肝臓がんの日中の治療方法の相違を議論し、消化器腫瘍診断における画像診断に関するガイドラインや日本のチーム医療の紹介に関して紹介を行い、症例検討を行った。個別の対応として当院では海外遠隔セカンドオピニオンで対応できることを説明した。

セミナーでのNCGMセンター病院の紹介

◆ 国立国際医療研究センター/中心病院・国際医療部
National Center for Global Health and Medicine Center Hospital
International Health Care Center

◆ 中日医学绿色通道/China-Japan Medical Green Channel

2020年主要方針：強化と展開中日国際医療交流の工作

基于至今开展的工作，2020年主要目标定位在**网络平台的建设与强化**。

主要方面：

- ❖ 推动和落实医护人员/医疗中作人员的交流，个案讨论，专家会诊等的开展。
- ❖ 推动和落实来日医疗咨询的网络平台业务的开展。
- ❖ 推动和加强国际之间网络平台第二医疗意见的开展。
- ❖ 推动和加强来日体检业务、健康管理咨询合作等业务的开展。

◆ 综合窗口



E-mail : support@hosp.ncgm.go.jp

电话：+81-3-6228-0749

传真：+81-3-6228-0738

また、オンラインセミナーでは、NCGMセンター病院の紹介を行った。日中の国際医療交流の強化・発展として、2020年の主な目標は、ネットワークプラットフォームの構築と強化とした。具体的に、中国に対して実施できる医療協力を4点提示した。①医療従事者の交流、症例検討、専門家相談、②医療相談のためのWebベースのプラットフォーム開発の推進、③国際的なネットワーク・プラットフォーム上でのセカンドオピニオンを開発・促進、④日本における健診・健康経営相談連携の発展を促進・強化、尚、これらの窓口は、国際診療部が行うことを示した。

1. 收到邀请邮件的每位成员、打开邮件后、屏幕上会显示以下的画面、请点击红色箭头。

(招待メールを受け取った各自は、メールを開くと下の方に、以下の画面が出るので、赤矢印をクリックしてください。)

Microsoft Teams 会議

コンピューターまたはモバイル アプリに参加

[会議に参加するにはここをクリック](#)



Click here

[詳細情報ヘルプ](#) | [会議のオプション](#)

オンラインでセカンドオピニオンを行うためには、Microsoft Office 365 Teamsを使うことが当院では求められたため、中国の患者さんがTeamsを用いることができるようなマニュアルを作成した。また、日本から招待メールを送り、中国で患者さんがそのメールを受取った場合、日本語表記で示されることが考えられたため、中国語翻訳を行った。Microsoft Teamsが中国で使うことができるかは不明であったが、実際には用いることができた。

2. 然后、会显示以下画面、请点击画面上的红色箭头。
(その後、以下のような画面になるので、赤矢印をクリックする。)



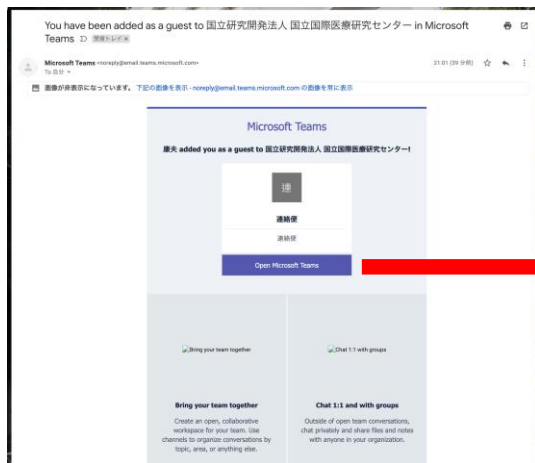
Click here

当初は、Teamsを用いる際に、患者さんは、Microsoft Teamsのソフトをダウンロードすることが必要だと思われ、そのダウンロードの説明も行っていたが、実際には、必ずしもダウンロードをしてもらう必要はなく、Teamsを用いることができたため、上記の図の説明を加えた。

研修資料

在接受Microsoft Teams邀请邮件时需进行的操作内容
(为了传送CT等图像数据)

Microsoft Teamsの招待メールを受け取った時に行うこと(3)
(CTなどの画像データを送るために)



作为我们Teams的客人，NCGM会发出邀请邮件。您会接收到如左式样的邮件。

NCGMからTeamsのゲストとして招待メールを出します。
あなたは左のようなメールを受け取ります。

Open Microsoft Teams

请点击此蓝色框
ここをクリックしてください。

セカンドオピニオンを行う際に、CT, MRI, PETなど、患者の画像情報が必要な場合がある。電子メールの添付書類では送付することができない場合には、MicrosoftのTeamsを用いて、画像情報をファイルに共有することにした。そのためには、上記の様に、中国語の翻訳をしたマニュアルを作成した。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画 (具体的な数値を記載)	①研修修了時の受講者数:30名 ②NCGMとセカンドオピニオン・症例検討会に関して協力機関となる数:3機関	①実際にNCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会が行われた回数:3回	①研修を行った医療機関において、セカンドオピニオン・症例検討会が行われ、実施内容がその医療機関のWeb siteに掲載される。
実施後の結果 (具体的な数値を記載)	①研修受講者数 オンラインのセミナー 計5,520人 ②協力機関:1機関	①遠隔セカンドオピニオン 3回 症例検討会 3回	①なし

※指標は前後比較が望ましい

9

アウトプット指標は、オンラインセミナーでは、参加者数を事前に把握することは困難であったこと、また、今回は予想外の多くの参加者があったため、①研修受講者数は、5,520人の参加となった。また、本事業の協力機関は1機関であった。アウトカム指標として、オンラインでの遠隔セカンドオピニオンは3回、症例検討会は3回実施した。インパクト指標として、セカンドオピニオンや症例検討会が行われ、その実施内容が医療機関のWeb siteに掲載されたものはなかった。

今年度の相手国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 海外遠隔セカンドオピニオンの導入

これまで中国人患者が日本の医療機関でセカンドオピニオンを受ける場合は、来日して行われてきた。本事業を通して海外遠隔セカンドオピニオンが実施されたことで、来日する必要はなくなった。

2020年は、コロナウイルス対応のため、入国制限が実施され、中国と日本との間も通常の往来が困難になった。よって、渡航の必要がない海外遠隔セカンドオピニオンが実施されることで、今後、海外からセカンドオピニオンを受ける方法がオンラインで行われる可能性が高くなった。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
- 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数:5,520名
- 期待される事業の裨益人口(延べ数):不明

これまでの成果(事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい)

- ・中国の患者さんに対して、Microsoft Office 365 のTeamsを用いて海外遠隔セカンドオピニオンが実施可能であることが判明した。
- ・実際にこのセカンドオピニオンを3ケース実施した。
- ・今後、オンラインでセカンドオピニオンを実施するためには、患者のCT・MRI・PETなどの画像検査結果が必要な場合がある。しかしながら、これらの画像データは容量が大きいので、メールに添付はできない場合が多い。情報の安全性を確保しながら、患者さんが送付するための方法を確立した。

今後の課題

- ・オンラインでのセカンドオピニオンのケース数を増加するためには、中国の医療機関や医療渡航支援企業との協力関係を強化する必要がある。
- ・患者さんが安心して、また、容易にデータを送ることができる方法とそのためマニュアル作りが必要である。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業の持続可能性については、特に、がんの診断、治療の分野は、海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会の重要性が理解されやすい分野である。

具体的には、①海外遠隔セカンドオピニオン実施→②日本での治療希望者の増加→③日本での受診と治療→④中国へ帰国後、医療機関でフォローアップ→⑤ケースによっては症例検討会の実施、が考えられる。

展開可能性については、中国の医療機関が日本との症例検討会が有用であると認識をすることで、日本とのオンラインによる症例検討会が展開すると考えられる。